リッチな生き方とひもじい生き方　ールシャ地区ヒグマ調査から　その7ー

図1.　8月6日、すでに太りはじめていたリッチ。
首にはGPS標識が付いている。

図2.　2015年7〜8月のリッチとキリコの行動圏。
点線がリッチ。実線はキリコ。ともにメスの成獣です。

マイナーメンバーの生活は？

これまでもご紹介してきましたが、ルシャ地区ではヒグマの長期観察を行っています。いつもここで見かける常連組のクマは、この地域に定住しているはずですが、急にいなくなってしばらく帰ってこなかったり、たまにしか見かけないマイナーメンバーは、ここに住んでいるのか、あるいは他に定住場所があって、ときおり来ているのか、どうも良く分かりませんでした。

日本初！麻酔銃でクマを生け捕り

そこでクマたちの動きを探るために、生け捕りして標識を付けることにしました。私たちは、日本で初めて野生のクマを麻酔銃で捕まえることに成功しました。ワナでは捕らえる個体を選ぶことはできませんでしたが、麻酔銃では捕まえたいクマを選ぶことができます。我々はのべ13回の生け捕りを行い、マイナーメンバーも含めるように選んで8頭のクマに標識を付けました。

GPS標識で追跡調査

GPS標識の原理は車のカーナビと同じです。地球を回る人工衛星によって位置が測定され、標識の中のメモリーに記録されていきます。さらにそのデータは、衛星回線を使って地上の基地局まで転送され、インターネットを通じて博物館のパソコンに定期的に入ってきます。つまり居ながらにして知床奥地のクマの動きを知ることができるのです。

この調査は、ダイキン工業株式会社のご支援のもと、知床財団と知床博物館、北海道大学獣医学研究科との共同研究により行われています。現地調査は知床漁業生産組合の皆さんの全面的な協力に支えられています。

リッチの生活

マイナーメンバーの代表的なクマに、リッチというメスがいます(図1)。このクマは頻繁にいなくなって、しばらくするとまたどこからともなく現れる謎のクマでした。図2の点線は今年の7〜8月のリッチの行動範囲です。何と、海岸線を知床岬近くまで行ったり来たりしていたのです。今年はマスの遡上が遅れて、8月にはほとんどのクマがやせ細ってしまっていました。しかし、リッチは8月上旬からすでに太りはじめていたのです。GPSデータから、彼女は海岸沿いに行き来しながら、マス定置網の手網に引っかかった魚を拾い食いして歩いていたことが分かったのです。

一方、シカに食われて初夏の餌になる草も乏しいルシャ地区に留まって、マスの川への遡上をじっと待っていた多くのクマたちは、とてもひもじい思いをして暮らしていました。図2の実線はそんなクマのキリコの行動圏です。8月には彼女は河口に座ってじっと海を見つめて、マスを待ち続けていました。彼女はガリガリにやせ、2頭の子グマも失っていまいました。要領よくリッチに暮らすクマ、つましく暮らすクマ、クマの生き様もいろいろです。

（山中正実）

発行　知床博物館協力会 2015.12.25
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内
TEL: 0152-23-1256　FAX: 0152-23-1257
http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/